

科学研究費助成事業

「境界線の想像力:ドストエフスキー文学の世界性とその表象化をめぐる超域的研究」

Kaken "Imagination of the Border; Transdisciplinary Research on the 'Worldliness' of F. M. Dostoevsky's Literature and its Representation"

Dostoevsky Symposium

ドストエフスキーシンポジウム②

「境界線上のドストエフスキー」

日時 2025年
8月28日(木)
14:00~17:00

参加無料

要申込

開催方法 Zoom ウェビナー

進行 梅垣 昌子 (UMEGAKI Masako 名古屋外国語大学)

【プログラム】

開会の挨拶

亀山 郁夫 (KAMEYAMA Ikuo 名古屋外国語大学)

講演

「西ドイツにおけるドストエフスキー受容と
分裂する主体
—オペラ《ラスコーリニコフ》とバレエ《白痴》から」

白井 史人 (SHIRAI Fumito 慶應義塾大学)

研究発表

◆「『悪霊』受容の深層

ドストエフスキーとショスタコーヴィチ」

亀山 郁夫 (KAMEYAMA Ikuo 名古屋外国語大学)

◆「『カラマーゾフの兄弟』と『大いなる遺産』の悪の分身

—スメルジャコフとオーリック」

甲斐 清高 (KAI Kiyotaka 名古屋外国語大学)

◆「ドストエフスキーの生涯と作品再考

—『カラマーゾフの兄弟』と『未成年』」

木寺 律子 (KIDERA Ritsuko 京都産業大学)

◆「名誉規範の崩壊とキリスト教的謙虚さの獲得

—ドストエフスキー作品における平手打ちと決闘について—」

齋須 直人 (SAISU Naohito 名古屋外国語大学)

コメンテーター

望月 哲男 (MOCHIZUKI Tetsuo)

番場 俊 (BAMBA Satoshi)

沼野 充義 (NUMANO Mitsuyoshi)

野谷 文昭 (NOYA Fumiaki)

藤井 省三 (FUJII Shozo)

エリス 俊子 (ELLIS Toshiko)



講演者紹介

白井 史人

SHIRAI Fumito

1985年生まれ。慶應義塾大学商学部准教授。東京大学大学院総合文化研究科修了、博士(学術)。音楽学、表象文化論を専門とし、映画の音楽や20世紀以降のドイツ語圏の音楽を主な研究対象とする。研究テーマは、シェーンベルク、アイスラーから戦後前衛音楽にいたる作曲家と映画との関連や、日独米における無声映画期の伴奏音楽など。主な著書は『ベートーヴェンと大衆文化 受容のプリズム』(沼口隆、安川智子、齋藤桂との共編著、春秋社)、『世界は映画でできている』(石田聖子との共編著、名古屋外国語大学出版会)、『貴志康一と音楽の近代 ヘルリン・フィルを指揮した日本人』(共著、青弓社)、『The Routledge Companion to Global Film Music in the Early Sound Era』(Jeremy Barham 編、第36章寄稿)。

応募締切 2025年8月25日(木) 17:00まで

申込方法

ウェビナーは事前登録制となっております。日本ドストエフスキー協会(DSJ)のホームページにアクセスし、専用リンクから事前登録をお願いいたします。ご登録後、ウェビナーへの参加方法をお知らせするメールが届きます。

問合せ先 日本ドストエフスキー協会
mail: dsjn_gg@nufs.ac.jp



Ф.М. Достоевский на «Грани»